

## 自然共生サイト認定証授与式 開会挨拶

本日は、年度末のご多忙の中、自然共生サイト認定証授与式に、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日、ご出席のみなさま方が、日々、各地の自然環境の保全に一方ならぬご尽力をされ、またご協力いただいていることに、心より敬意と感謝の意を表します。

さて、環境省が、2023 年度から始めた「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」に認定する仕組みですが、これまで全国で 184 か所が選ばれ、そのうち東北地方では 9 か所が選ばれています。

自然共生サイトの考えの元を辿ると、今から 30 数年前の、1992 年に採択された生物多様性条約にたどり着きます。2 年に一度開催される同条約の第 10 回目の締約国会議(COP10)が、2010 年に、愛知県名古屋市で開催されました。そこでは、生物多様性を保全するための 2020 年までの世界目標である「愛知目標」が決められました。その教訓を踏まえつつ、2022 年の COP15 で採択された新たな生物多様性の世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」では、「自然と共生する世界」というビジョンを愛知目標から引き継ぎつつ、2030 年までの緊急の行動のための世界短期目標として、23 のグローバルターゲットが盛り込まれました。その中の、生物多様性への脅威を減らすターゲットの一つに「30by30」や保護地域及び OECM が含まれています。ターゲット実現の取組が、本日お越しのみなさまの活動と繋がっていることは言わずもがなです。

昨年の気温は、国連のグテーレス事務総長が地球温暖化から地球沸騰化と発言した通り、地球レベルで過去最高を記録し、その影響で世界各地で異常気象や森林火災等の危険性がかつてない確率で高まっています。日本でも、海水温の上昇に伴い、三陸をはじめ、水揚げされる魚の種類がより南の魚種に置き換わったり、冬期の積雪量が減ることで野生動物の生息範囲が北上もしくは高標高地に移動したりと、地球温暖化と密接にかかわる生態系や生物多様性への影響が顕在化しています。

現実を観ると悲観的な気持ちになりますが、世界レベルで、生物多様性保全が進められている中で、皆様の取組は、この東北地方で先進的かつ、希望を頂けるものです。危機的な状況の人類の存続基盤である自然環境の保全を、将来世代に向けて、皆様と、しっかりと保全していきたいと思えます。今回の受賞、誠にありがとうございます！簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。